

4. 2 就職（企業との関わり）について

(1) 奈良県内地方公務員受験サポート～地方公務員になりたいあなたへ～

本学の学生には、公務員志望の学生が多く存在することから、地域人材の育成や地元定着の推進の観点から地方公務員に注目して事業を実施した。また、ともすれば奈良県庁ほか、奈良市や生駒市など都市部の自治体にのみ目が行きがちな学生達の視野を広げるべく、県下 23 市町村への聞き取りに基づいて作成した小冊子の配布や中南部に所在する田原本町長とのランチミーティング、自治体見学ツアーなどを実施した。これを「COC+事業 奈良県内地方公務員受験サポート～地方公務員になりたいあなたへ～」と名付け下記の 8 つの事業に取り組んだ。

1) 小冊子「公務員として奈良で働きたい人へ」の改訂版を作成・配布

昨年度の取り組みのひとつとして、奈良県下の 21 市町村の人事担当者に「求める人材像」や「NG な人材像」、「採用計画と選考スケジュール」、「インターンシップの受け入れの有無」、「本学卒業生への評価」などについてインタビュー方式で聞き取りを行った。今年度は新たに 2 市（天理市、大和郡山市）の情報を追記した改訂版を作成し、本学の公務員試験対策講座の受講生や本学キャリア・サポート室に相談に来た公務員志望の学生に配布した。

<掲載市町村>

奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、王寺町、広陵町、河合町

2) 奈良県職員採用説明会の開催

平成 31 年 4 月 26 日、本 COC+事業で学内連携をしているキャリア・サポート室が主催となり、奈良県人事委員会の協力を得て奈良県職員採用説明会を開催した。

参加学生は 13 名（本学 7 名、奈良女子大学 6 名）であった。本説明会の目的は奈良県職員の仕事内容の理解を促進することで、近年重視されている口述試験（面接）の回答内容を充実させ、試験合格を目指すものである。奈良県人事委員会による採用スケジュールの紹介、詳細な勤務条件の説明の後、本学卒業生の現役職員から業務内容の発表が行われた。奈良県を志望した理由から、現在の部署の仕事内容まで詳しく紹介された。

参加学生からは「詳しい話をお聞きし、奈良県も受験の対象になった」や「職員の方から直接仕事内容を聞くことができ、モチベーションが上がり試験勉強への意欲も出てきた」等の意見があった。

4. 2 就職（企業との関わり）について

(1) 奈良県内地方公務員受験サポート～地方公務員になりたいあなたへ～

本学の学生には、公務員志望の学生が多く存在することから、地域人材の育成や地元定着の推進の観点から地方公務員に注目して事業を実施した。また、ともすれば奈良県庁ほか、奈良市や生駒市など都市部の自治体にのみ目が行きがちな学生達の視野を広げるべく、県下23市町村への聞き取りに基づいて作成した小冊子の配布や中南部に所在する田原本町長とのランチミーティング、自治体見学ツアーなどを実施した。これを「COC+事業 奈良県内地方公務員受験サポート～地方公務員になりたいあなたへ～」と名付け下記の8つの事業に取り組んだ。

1) 小冊子「公務員として奈良で働きたい人へ」の改訂版を作成・配布

昨年度の取り組みのひとつとして、奈良県下の地方自治体21市町村の人事担当者に「求める人材像」や「NGな人材像」、「採用計画と選考スケジュール」、「インターンシップの受け入れの有無」、「本学卒業生への評価」などについてインタビュー方式で聞き取りを行った。今年度は新たに2市（天理市、大和郡山市）の情報を追記した改訂版を作成し、本学の公務員試験対策講座の受講生や本学キャリア・サポート室に相談に来た公務員志望の学生に配布した。

<掲載市町村>

奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、王寺町、広陵町、河合町

2) 奈良県職員採用説明会の開催

平成31年4月26日、本COC+事業で学内連携をしているキャリア・サポート室が主催となり、奈良県人事委員会の協力を得て奈良県職員採用説明会を開催した。

参加学生は13名（本学7名、奈良女子大学6名）であった。本説明会の目的は奈良県職員の仕事内容の理解を促進することで、近年重視されている口述試験（面接）の回答内容を充実させ、試験合格を目指すものである。奈良県人事委員会による採用スケジュールの紹介、詳細な勤務条件の説明の後、本学卒業生の現役職員から業務内容の発表が行われた。奈良県を志望した理由から、現在の部署の仕事内容まで詳しく紹介された。

参加学生からは「詳しい話をお聞きし、奈良県も受験の対象になった」や「職員の方から直接仕事内容を聞くことができ、モチベーションが上がり試験勉強への意欲も出てきた」等の意見があった。



写真 18 と写真 19 採用試験の内容や、本学卒業生から仕事のやりがい等
奈良県職員の働き方を詳細に説明された

3) 奈良県内 4 市の面接対策講座「スタディーセミナー」の開催

令和元年 5 月 8 日から 7 月 12 日までの水曜日と金曜日に、奈良県内の地方自治体の中でも、本学の卒業生が多く内定を獲得し、かつ、就職希望の比較的多い 4 市（奈良市・生駒市・橿原市・大和郡山市）の面接対策講座「スタディーセミナー」を開催した。講義形式で、4 市で働く魅力や採用に関する考え方等、各市の人事担当者にインタビューして知り得た情報をベースにしてレクチャーを行った。

「奈良市スタディーセミナー」は 5 月 10 日と同月 15 日に開催し、10 日のセミナーには 2 名（本学 3 年次生）が参加した。15 日のセミナーには 9 名（本学 3 年次 5 名、奈良女子大学 4 年次 2 名、3 年次 1 名、修士 2 年次 1 名）が参加した。その 9 名のうち、就職活動中であったのは奈良女子大学の 4 年次 2 名と修士 2 年次 1 名の計 3 名で、奈良市を受験していると語った。残りの 3 年次は奈良市を来年度に受験するので今から準備したいと語った。

「生駒市スタディーセミナー」は 5 月 17 日に開催し、2 名（本学 3 年次と、奈良女子大学 4 年次）が参加した。

「橿原市スタディーセミナー」は 6 月 12 日に開催し、本学 4 年次 1 名参加した。

「大和郡山市スタディーセミナー」は 7 月 12 日に開催し、本学 3 年次 1 名が参加した。

4) 個別相談会の開催

令和元年 5 月 24 日に個別相談会を開催し、本学 3 年次 1 名が参加し、面接対策についての相談に応じた。

5) 奈良県田原本町長とのランチミーティングの開催

令和元年 5 月 22 日、学内連携をしているキャリア・サポート室が主催となり、田原本町の協力を得て、田原本町役場と田原本町青垣生涯学習センターを会場に実施した。参加学生は 3 名（本学 2 名、奈良女子大学 1 名）で、当日は、森章浩町長の挨拶、田原本町の概要説明、重点政策の説明、採用試験の内容説明が行われた。その後、庁舎の見学と各部署の役割、仕事内容の説明が行われた。昼食会場は田原本町青垣生涯学習センターのカフェ弥生で、森町長、町職員 3 名、学生 3 名によるランチミーティングが行われた。学生からは「地域住民への交通手段はどのように確保しているのか」や「地域資源の活用はどのよ

うに取り組まれているのか」等の質問が町長に投げかけられた。森町長からも「女性に選ばれる町になるにはどうすればいいか」や「町の魅力を発信するのに効果的な SNS は何か」など、日頃は交流の少ない大学生からの情報収集が積極的に行われた。また、民間企業での勤務の後に同町職員に転職した職員の話からは、卒業からストレートに公務員になるケースだけではなく、公務員になるまでの「道」は様々にあることがうかがわれた。ランチミーティング後は「唐古・鍵考古学ミュージアム」を見学した。唐古・鍵遺跡について紹介され、観光資源にも恵まれている同町の魅力も理解できた。

森章浩田原本町長から「大学生との直接交流は、貴重な情報交換の機会である」とのコメントを頂き、大学生の SNS の活用を聞き、その場で職員に新しい指示を出されていた。

参加学生からは「上司とも近いことや住民とも近いことが、小さい町ならではの魅力だと感じた。小規模な自治体も受験してみたいなと感じた」や「未来に向けて新しい取り組みをしていると感じた」、「若者の意見を受け止めてくれる雰囲気があった」等の意見があった。また、この取り組みを取材するため地元のテレビ局や新聞社が訪れ、学生と自治体が相互に理解しあう貴重な取り組みとして報道された。



写真 20 田原本町舎内を見学。各部署の仕事と町民との関わりについて、説明を受ける



写真 21 田原本町長とのランチミーティング

6) 自治体見学ツアーの開催

令和元年 6 月 5 日に宇陀市役所と桜井市役所、令和元年 7 月 5 日に御所市役所、葛城市役所及び香芝市役所を見学するツアーを企画・実施した。

まず、宇陀市役所では、人事担当者から「宇陀市の概要」「職員採用試験の案内」「求める人材像」の説明があった。次に、本学 OB 職員から、「現在の仕事内容」や「自身の 3 年次当時の学びや就活準備」(ゼミでの活動、3 年次の頃の取り組み、自己 PR のネタ作り等) についての話があった。学生達は熱心にメモをとっていた。また、学生達からは、希望した部署に配属されているのか、通勤手当や残業、育休の取得等について質問がなされた。その後、本学 OB 職員の職場を窓口カウンター越しに見学し、具体的な仕事の内容や他の職員との役割分担等について説明を受けた。

桜井市役所では、まず人事担当者から「桜井市の概要」「職種の説明」「求める職員像」の説明があった。

次に、本学 OB 職員より、自身の 3 年次当時の学びや就活準備（東日本大震災から防災を学び始めたこと、平城遷都 1300 年記念事業にイベントボランティアで参加したこと、コミュニティー支援や市民協働に興味があったこと等）について話があった。

学生達からは、防災時の職員対応、残業、男性の育休取得状況、面接試験でのグループワーク等について質問があった。

これら 2 つの市役所へのツアー終了後に実施した参加者アンケートからは、自治体見学ツアーに「満足」したこと、「地方公務員になりたい気持ち」や「県内の地方自治体への受験・就職意識」が向上したことが確認された。



写真 22 宇陀市役所にて



写真 23 桜井市役所にて

令和元年 7 月 5 日には「御所市・葛城市・香芝市見学バスツアー」を開催した。

まず、御所市役所では、市長より「御所市は実質赤字比率や実質公債費比率は夕張市の次に危ないと言われる程、大赤字だった。そのため、補助金の見直しなど大改革を行った。市民は『補助金がなくても自分達でできることをやっといこう』と一緒にイベント等を行って今でも継続して開催されている。赤字から黒字に転換できた」等の話があった。

次に、まちづくり課の職員が「中心市街地の活性化」「駅周辺の整備」「歴史的な町並みの御所まち」などのまちづくり関連の取組や御所市の歴史について解説した。

人事担当者からは、職員採用試験の案内や「御所市がいま求める職員像」について説明を受けた。最後に、奈良女子大学の OG 職員と参加学生との座談会形式の意見交流会を開催し、御所市役所を志望した理由、公務員受験のための学習内容、残業等について質疑応答がなされた。

葛城市役所では、まず、人事担当者より「葛城市の概要」「職員採用試験の案内」「求める人材像」等について説明を受けた。次に、本学と奈良女子大学の OG 職員より、現在の仕事内容、自身の経歴（企業から転職し、出産・産休・育休を経て市役所に勤務）、観光協会等と連携しながら観光に関する業務に携わっていることなどについてうかがった。

その後、学生達からは、葛城市の防災、残業、仕事量等について質問がなされた。職場見学では、市役所 1 階の各課や OG 職員が在籍中の課、議場を見学した。



写真 24 御所市役所にて



写真 25 葛城市役所にて

香芝市役所では、まず人事担当者より「職員採用試験の案内」、「求める人材像」、香芝市の概要等について説明を受けた。その後、学生達からは「新規卒業者等採用試験と職務経験者採用試験の違い」「香芝市の魅力」「残業や仕事量について」等について質問がなされた。本学 OG 職員からは、現在の仕事内容、大学での学修がどのように現在の仕事に結びついているかなどについて話があった。



写真 26 香芝市役所にて

自治体訪問後に実施した参加者アンケートにおいて、自治体見学ツアーに「満足」したこと、「地方公務員になりたい気持ち」や「県内の地方自治体への受験・就職意識」が向上したことが確認された。

また、本学参加学生のうち1名が見学ツアーで訪問した自治体から内定を獲得した。

7) 奈良県庁面接対策セミナー～面接試験前に準備して欲しいこと～の開催

令和元年7月3日、キャリア・サポート室主催による、奈良県庁面接対策セミナー～面接試験前に準備して欲しいこと～を開催した。参加学生は8名（本学4名、奈良女子大学4名）であった。公務員採用試験における面接試験の重要性は年々向上しているが、公務員志望者の中には、筆記試験を合格すれば面接試験は儀式的に行われるものだと誤って認識をしている学生が一定数存在している。一方で、面接試験での質問に対して、仕事に対する熱意が伝えられない学生の存在も目立っているのが現状である。これらの誤った面接試験の認識を改めるとともに、面接試験で伝えるべきポイントを学生にレクチャーすることで、合格獲得を目指すことを目的として実施した。講師は奈良県 OB に依頼した。セミナーでは採用試験の流れ、試験の実施内容について詳細に解説がなされた。特に、「グループワーク」「面接試験」の重要性が説かれた。セミナーの締め括りでは「県職員を志望した

動機は何だったのか、もう一度自分に問いかけて本当に奈良県職員になりたいと思ったら、胸を張って面接に臨んでください」というメッセージが講師から参加学生に送られた。学生からは「面接に向けて何を準備すればいいのか迷っていたが、奈良を良くしたいと考えている今の気持ちが大切だと知って少し安心した」「グループワークでは、アドバイスされたことに注意して臨みたい」等の意見が聞かれた。



写真 27 と写真 28 採用試験の形式や、県職員として働く矜持について等の講義が行われ、長年公務員として勤務してきた講師の話に、学生達が深くうなづく場面が見られた

上記の取り組みから、令和2年度の採用枠において奈良県3名、奈良市2名、生駒市1名、御所市1名、それぞれに内定獲得ができた。

(2) 学内業界業種説明会の開催

令和元年11月13日、キャリア・サポート室が主催し、奈良しごとiセンターの協力を得て学内業界業種説明会を開催した。参加学生は16名（本学15名、奈良女子大学1名）である。本説明会の参加企業の構成は、地域創造学部に対応した企業、学生構成比率の約70%が女子学生である本学を意識した企業、広く業界・業種を学ぶ機会としてのバランスの取れた企業、学生に企業理解を促しつつ人材確保に前向きな企業、の4つをベースとした。これらを元に複数の企業に参加依頼を行い、最終的に勤務地が奈良県内にある9社が参加した。

<参加企業>

(株)MST コーポレーション、カトープレジャーグループ、共栄社化学(株)、住江織物(株)
田村薬品工業(株)、DMG 森精機(株)、(株)十川ゴム、フジモト HD(株)、ホソカワミクロン(株)
(順不同)

本社を奈良県以外に持つ大手企業が参加したことで、学生達が持つ「奈良で働くこと、すなわち、奈良の地場産業」だけではないことの理解を促すことができた。

学生からは「大学で行われているので参加しやすかった」「他のイベントならば、大人数で聞くような大手企業の話が少人数で聞くことができよかった」等の意見が出た。また、参加企業からは「一人ひとりとじっくり話ができて満足している」「奈良工場に関心を持ってもらえてよかった」「貴学の学生気質を垣間見ることができ、次回も参加したいと思った」など、参加した学生に対する高評価を得た。

今後の課題は、本説明会に参加した企業との関係性を深く構築し、同様の説明会の開催等を含めた採用活動に繋げることである。



写真 29 と写真 30 世界的機械メーカーや薬品、繊維など 9 社が参加。質疑応答流が活発に行われ、企業からも学生からも満足の声が聞かれた

(3) 働きやすい奈良県内企業の紹介～くるみん・プラチナくるみん・奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業～

学生が卒業後に奈良県内で安心して働き、生活して、豊かな人生を送るためには、働きやすい職場や恵まれた労働環境が必要である。特に、女子学生の地元定着を図るためには、子育て支援等のサポート体制が整っていることは重要な事項となる。そこで、学生に対して「働きやすい」・「女性の活躍推進に熱心」・「子育てサポートが充実」の 3 点を満たしている奈良県内の企業を紹介するために、「プラチナくるみん」・「くるみん」の各認定企業、及び「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」の人事担当者に聞き取り調査を行い、調査結果を小冊子にまとめ配布することにした。

「くるみん認定」は、厚生労働大臣が「子育てサポート企業」と認めた場合に取得できるものである。(企業は次世代育成支援対策推進法に基づき「一般事業主行動計画」を策定し、行動計画に定めた目標を達成する等の一定の要件が必要。)



「プラチナくるみん認定」は、くるみん認定企業のうち、より高い水準の取組を行った企業が一定の要件を満たした場合、優良な「子育てサポート」企業として厚生労働大臣の特例認定を受けたものである。



すなわち、この 2 つの認定は、厚生労働大臣が「子育てサポートに熱心な企業である」とお墨付きを与えるものである。企業は、くるみんマークを商品、広告等に付け、子育てサポート企業であることを PR できる。社員は子育てサポートが充実しているため、仕事と家庭の両立がしやすく働き続けやすい。

また、奈良県では、育児・介護との両立や、男女が共に働きやすい環境など仕事と生活の調和のとれた、また、雇用の継続や復帰がしやすいなど柔軟かつ多様な働き方ができる職場づくりや女性の就業率の向上など奈良県の実情に対応した地域雇用の推進、正規雇用の拡大など良質の雇用環境整備に取り組んでいる企業を「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」として登録し、企業の取組内容などを県のホームページ等で紹介し、その活動を応援する制度がある。



企業にとっては、有能な人材の確保、社員の意欲向上、生産性の向上、企業イメージのアップが期待できる。さらに、登録した企業の中から、取組内容が優れている企業を表彰する「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業表彰」制度もあり、企業は、この表彰を受ける

ことで、さらなる企業イメージの向上が期待される。働く人にとっては、仕事と生活の両立、就業継続やキャリア形成に加えて、新たな雇用機会の獲得、心身の健康維持が期待できる。

これらを取得している奈良県内企業6社にインタビューができた。企業名及び取得した認定等は下記の表3のとおりである。

表3 取材先企業一覧

株式会社南都銀行	「プラチナくるみん」平成29年特例認定企業 「くるみん」平成24年・平成27年認定企業
市民生活協同組合ならコープ	「くるみん」平成20年認定企業
株式会社天理時報社	「くるみん」平成25年認定企業
株式会社明新社	「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」平成23年度表彰企業
奈良中央信用金庫	「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」平成25年度表彰企業
株式会社ノブレス・セントラル	奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業

インタビューから共通点を読み解くと、下記の3つになる。

- ① 従前より「働きやすい職場づくり」や「女性の活躍推進」等に取り組んでいた。
- ② 優秀な若い人材を獲得すべく、これらの認定取得をPRし、採用に繋げたい。
- ③ 働きやすく子育てもしやすい職場環境整備により若手の離職率を低くしたい。

配布した小冊子を読んだ学生からは、「これだけ女性に優しく、働きやすい企業が奈良県にあるなら、その企業で働くことも考えたい」、「こういった企業があることを知り、男性も働きやすく子育て支援を受けられるのであればよいことだと思う。奈良県の企業の良さが分かった」などのコメントが寄せられた。

学生が、企業を知り自分自身のキャリアプランを考察するために、今後も奈良県内企業の情報を届ける取り組みは有用である。

(4) 奈良県と連携した奈良県内企業への再就職支援

再就職を支援していくことで、既卒者の採用ニーズが高い県内企業への就職支援にも繋げていくため、奈良県と連携し、今年度より卒業生の県内再就職支援に取り組みを始めた。

奈良県雇用政策課と連携し、同課のホームページに本学卒業生向け県内再就職支援の紹介ページを立ち上げた。これにより、一度は県外の企業に就職したが、事情があつて奈良県内への再就職を希望する本学卒業生や子育てが一段落し県内での就労復帰を目指す卒業生の選択肢が広がることになった。